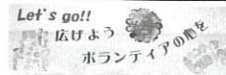


2019年活動スローガン「Let's go!! 広げよう ボランティアの心を」



報 告 2019年7月～9月支援分

イベント情報

〈バングラデシュ〉

●トイレ寄付

- ・占いの館「千里眼」様よりカパシア郡の学校にトイレを3基
- ・有志の方々よりカパシア郡の4つの学校にトイレを4基

●その他の寄付

- ・早川住江様よりカパシア郡の学校に扇風機16セットと机とイス6セット
- ・有志の方よりカパシア郡の学校に机とイス13セット

〈スリランカ〉

8月に「スリジナラタナ社会福祉協会」への奨学金基金として同代表のニャーナーランカーラ氏を通じて20万円を寄付

10/23
(水)

秋のチャリティバザー

場所: 本協会ボランティアセンター (伊丹市)
時間: 10:00～14:00



お知らせ

ノクシカタ刺しゅう製品のインターネット販売を始めました。今まで以上にお気軽にご購入頂けますので、ぜひご活用ください。

URL: <https://angel-ngo.shop-pro.jp/>



ご家庭に眠っている未使用の切手やハガキ等ございましたら是非ご寄付ください。いただきました切手やハガキは当協会運営の一部に充てさせていただきます。

編集後記

今年の夏も猛烈な暑さでしたが、皆様体調を崩されることなく夏を乗り切られたでしょうか。エンゼルでは夏の間中、毎日前の公園から大音量の蝉の鳴き声が響き渡っていました。夏が終わって蝉の声が静かになると、今度はバザーに向けて準備する会員さんの楽しい声が響き渡ります。10/23(水)バザー当日は、お客様の声も加わり、蝉に負けない賑やかな一日になることでしょう。

2019年 行事予定

10月現在

10月	20日(日)	ノクシカタ販売	堺山之口商店街	堺市
	20日(日)	チャリティバザー	吉川温泉よかたん	三木市
	22日(火)～28日(月)	ノクシカタ販売	高円寺ギャラリーR	東京都
	23日(水)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市
	26日(土)	ノクシカタ販売	堺市総合福祉会館	堺市
	27日(日)	ノクシカタ販売	青木電器店前	神戸市
	27日(日)	チャリティバザー	大阪青山大学	箕面市
11月	3日(日)	チャリティバザー	であい市門戸厄神	西宮市
	3日(日)	チャリティバザー	三木金物まつり	三木市
	8日(金)	チャリティバザー	垂水駅前東広場	神戸市
	9日(土)	チャリティバザー	木津卸売市場	大阪市
	10日(日)	ノクシカタ販売	メッセみき	三木市
	19日(火)	チャリティバザー	JR六甲道南公園	神戸市
	23日(土)	チャリティバザー	和歌山ビッグホエール	和歌山市
	30日(土)	チャリティバザー	スーパーニシヤマ三田店	三田市
	30日(土)	チャリティバザー	アスパ高砂	高砂市
12月	15日(日)	街頭募金	JR浦和駅前	さいたま市
	22日(日)～23日(月)	街頭募金	JR天王寺駅前	大阪市

※行事予定はホームページ上にも掲載、随時更新しています。

会員募集

本協会の活動は皆さまの会費の他、募金や寄付金、バザーなどのチャリティイベントの収益金によって支えられています。ご協力をお願いいたします。

●正会員

一般会員 年額1口 6,000円
特別会員 年額1口30,000円

●DCEF会員(教育里親)

1ヵ月1口 2,000円

※送金方法は現金書留又は郵便振替でお送り下さい。

郵便自動払込方法も受付けています。

郵便振替・口座番号

01130-1-59586

※その他、バザー用物資によるご協力もよりしく願います。

会員数: 一般会員 704名

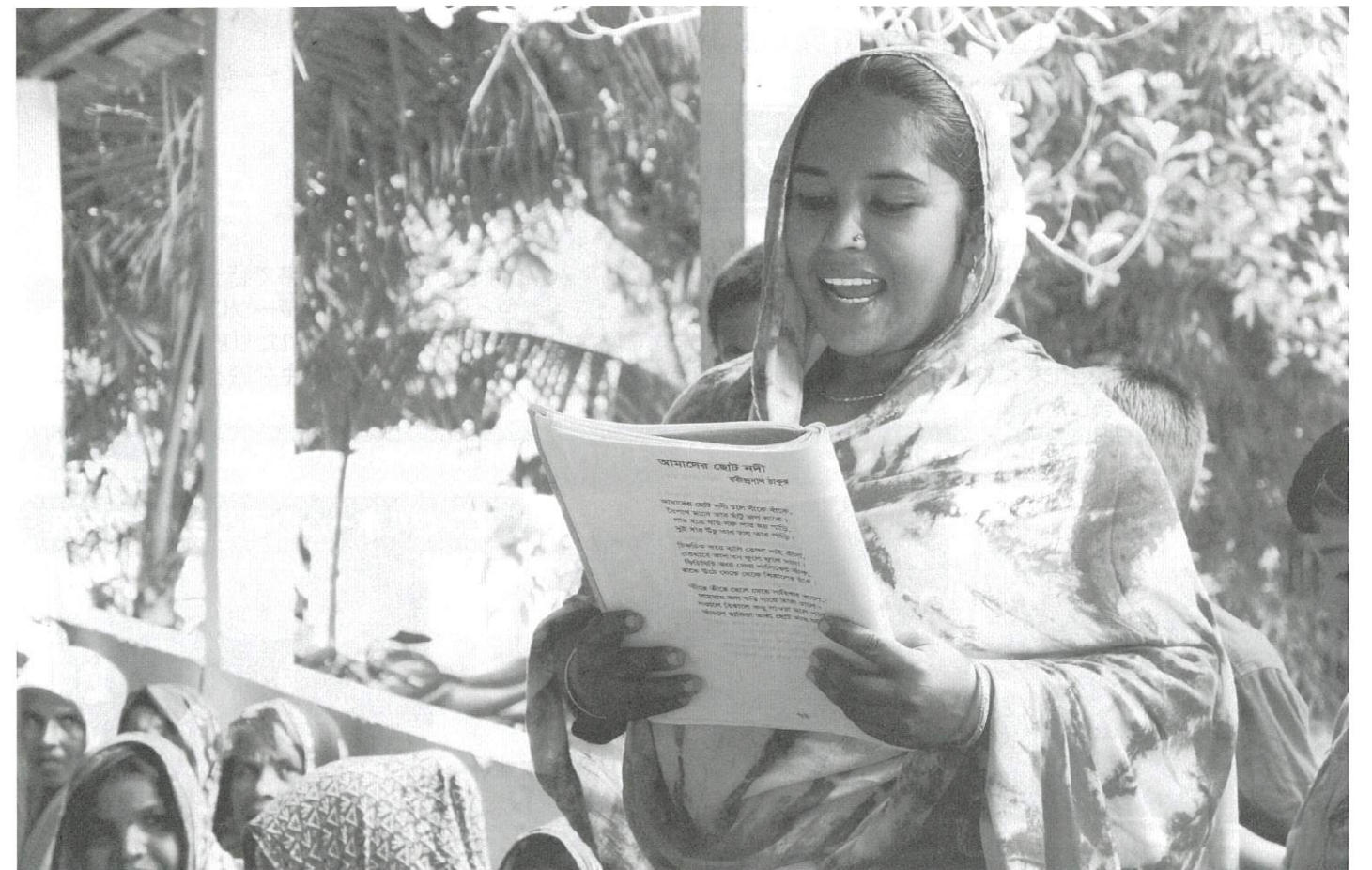
DCEF会員 698名

(10月1日現在)

ANGEL NEW

通巻189号
2019.10

- ① バングラデシュツアー特集
- ② エンゼルホームの子ども達
- ③ 国内活動



識字教室に通う農村女性

バングラデシュはこの35年間で随分変わりました。最近は見覚ましく発展していっているように思います。空港内も明るく広くなり、お店やエスカレーターが出来ました。また、トイレもきれいになりました。行くたびにきれいになっていきます。それだけでも、どれだけ多くの外国人が行き来しているかを感じます。

1991年、最初にバングラデシュに着いた時、空港はうす暗く、狭いところから入国し、なんとなく怖い感じがしたことを今も覚えています。ほとんど女性を見かけることもなく、学校の竣工式に行った時は遠くで顔を隠して家の陰から覗いている女性を見かけました。今では縫製工場に行く女性達がカラフルなサロワカミスを着て大勢道を歩いています。ノクシカタを刺している人達の家を訪問しても楽しげに談笑しながら作業をしています。もう夫に虐げられている女性はいないのではないかと……。しかしまだ田舎にはその発展が届いていません。電気もないところで将来の夢に向かって一生懸命勉強している奨学金をもらっている学生達、6か月ごとに行われる識字教室にはいつも180人の女性が入学してきます。まだまだ私達の支援が必要です。教育はすぐに目に見えて効果が表れるものではありません。しかし細やかに長く続けることで確かに国はよくなっていくのではないのでしょうか?

これからもエンゼル協会の当初からの目的である、子ども達が夢と希望をもてるよう教育に力を注いでいきたいと思ひます。ご協力よろしくお願いいたします。

代表理事 東村 眞理子

発行者



特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp

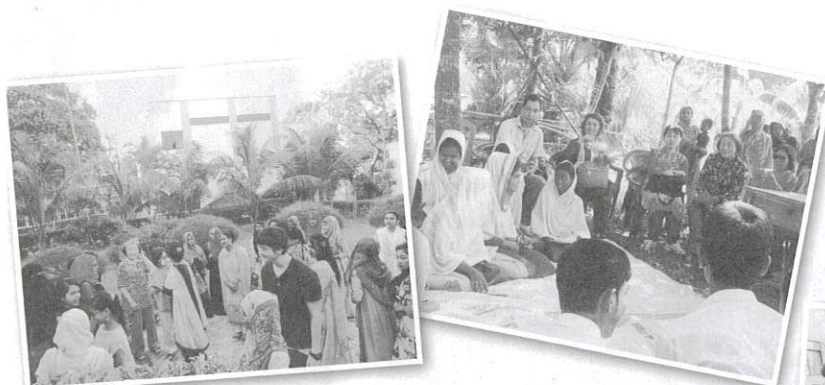
～2019年バングラデシュツアー特集～

国際エンゼル協会では会員の方を対象にしたバングラデシュツアーを年に数回開催しています。今年は6月と8月に開催しました。6月(スタディツアー)は大人の方を対象に現地のプロジェクト見学や農村訪問を行い、8月(ファミリーツアー)は学生や子どもを対象に現地の子ども達との交流をメインにした内容でした。バングラデシュの魅力である「人」との触れあいに、参加された方は皆とても感動されていました。



スタディツアー (6/22～6/28)

参加者8名に加え現地で5名合流し、引率スタッフ2名と併せて15名の大所帯で行ってきました。フルーツの美味しい季節で、毎食後に出てくる色とりどりの南国フルーツに皆大満足でした。暑い季節でしたが、行く先々で現地の方がうちわで扇いでくれたり飲み物を出してくれたり、バングラデシュの方々のおもてなしに心洗われるステキな旅となりました。



職業訓練所の学生や奨学生達と意見交換



エンゼルホームの子ども達との交流



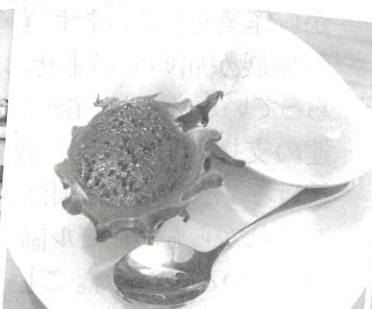
トロピカルフルーツの散々

(左: ジャックフルーツ)
(右: ドラゴンフルーツ、マンゴー、ライチ)



活躍する現地の女性達と交流

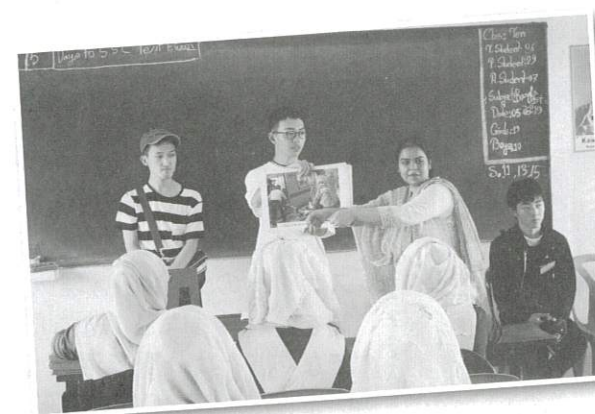
(左: 女性自立センター、右: 識字教室卒業式)



ファミリーツアー (8/3～8/10)



毎年8月に開催しているファミリーツアー、今回は小学生から高校生、大学生、社会人の方まで幅広い年齢層の方が参加しました。エンゼルホームの子ども達との運動会やDCEF奨学生との意見交換会、「HIROSHIMA DAY」弁論大会、カバシア農村訪問など、様々な内容のプログラムに参加者の皆さんはとても充実した時間を過ごすことができました。



YURIKOエンゼルスクールで日本の紹介をする大学生



エンゼルホームの子ども達と運動会



HIROSHIMA DAY弁論大会でスピーチする小学生



自分達で街頭募金やつリマを行い寄付したトイレを訪問



DCEFの奨学生と日本の学生達が意見交換会



エンゼルホームの子ども達とお別れ会

2020年もバングラデシュ・ツアーを開催します。ぜひご参加ください。

- 1/25(土)～2/1(土)スタディツアー
 - 4/15(水)～25(土)スタディツアー
 - 8/17(月)～8/24(月)ファミリーツアー
 - 11/18(水)～11/26(木)バングラデシュ支援35年記念ツアー
- ※都合により日程が変更になる場合があります。詳しくは事務所までお問い合わせください。

エンゼルホームから巣立っていく子ども達

今年は2人の女の子がエンゼルホームを巣立っていきました。これから彼女達はホームの外で自立して生活していきます。そしてそれぞれ来年の1月から4年間理学療法の専門学校に通います。私達は2人が無事卒業し、社会に羽ばたいて行く日まで支援をし続けていきます。彼女達が立派に成長し、社会で活躍する日が楽しみです。

ジュイちゃん(16才)
(Abida Akter)



ガールスカウト大会で受賞



入所時にお母さんと来所した時の様子

シャルミンちゃん(16才)
(Sarmin Akter)



お母さんと来所した時の様子

2014年にエンゼルホームに入所。2018年にはガールスカウトの大会で総理大臣賞を受賞するなど、勉強だけでなく様々な分野で活躍していました。2020年から健康技術専門学校の理学療法科に進学予定です。

2009年にエンゼルホームに入所。大人しい性格の彼女ですがとても面倒見が良く、ホームではいつも年下の子達から慕われていました。

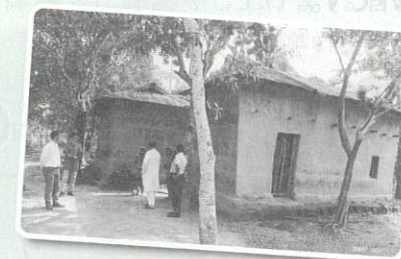
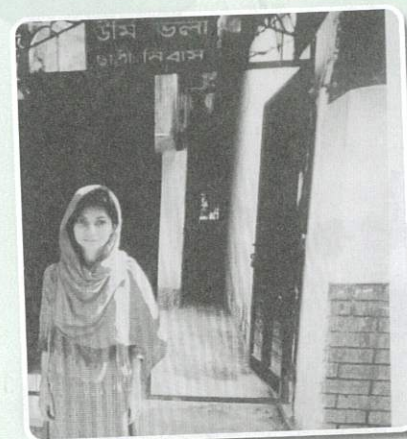
2020年から国立健康専門学校の理学療法科に進学予定です。

※1986年に首都ダッカにて12人の子ども達と共に始まったエンゼルホーム。33年の間で実に127名もの子ども達の人生と関わってきました。彼らは皆エンゼルホームで学んだ事を忘れずに、社会で活躍しています。これからもより多くの子ども達が夢と希望に溢れた人生を送れるよう、支援していきたいと思ひます。皆様のご協力よろしくお願い致します。

エンゼルホームから羽ばたいていく子ども達

また、2人の女性が私達からの支援を終え、社会に羽ばたいていきました。彼女達の今までの努力が実りこれからの人生が幸せでいっぱいになる事を願っています。

アスマ・アクタさん(22才)
(コリちゃん)



コリちゃんの実家



エンゼルホーム入所時
7才の頃のコリちゃん

エンゼルニュースの2019年1月号でも紹介しましたアスマさん、2003年にエンゼルホームに入所して以来皆様にご支援いただき、今年の6月に無事大学を卒業しました。バングラデシュは就職難であり、8月現在彼女も就職活動の真っ最中です。彼女は小さな頃から病気の父親の姿を見ており「医療関係の仕事について、苦しんでいる人を救いたい」という夢を持っていました。彼女の夢が叶うことを願っています。

タフニン・シャムスさん(22才)
(シュベッチャちゃん)



7才の頃のシュベッチャちゃん



ツアーで訪れた東村代表に
卒業の報告に来てくれました

タフニンさんは2001年にエンゼルホームに入所。小学校の頃から皆様のご支援を励みに勉強を頑張っていた彼女も今年の6月に無事大学院を卒業しました。卒業後は教師の職を希望しており、夢の実現に向けて現在就職活動に励んでいます。頑張り屋の彼女ならきっと素晴らしい教師になれることでしょう。立派に社会で活躍している報告を楽しみに待っています。

タフニンさんからのメッセージ

私は2019年に大学院を卒業し、博士号を取得することができました。2001年にエンゼルホームに来てからみんなと過ごした素晴らしい日々は、たくさんの兄弟姉妹に囲まれた幸せな日々でした。私達はお互いで共有し、協力し合うことの大切さを学びました。楽しい毎日の中で、規律を重んじ、そして自分を磨き上げていくことができました。周りをきれいにし、環境を整え、そして周囲の人を大事にすることを教わりました。私の心の中にもいつも日本の皆様への感謝の気持ちが詰まっています。私に教育を受ける機会をくださり、そして私の人生を変えてくださった皆様へ、改めてお礼をお伝えします。ありがとうございました。



2019年 夏の国内活動

暑かった今年の夏、子ども達が参加できる様々なイベントを行いました。子ども達がバングラデシュの文化にふれたり、またイベントを通して国際エンゼル協会を少しでも身近に感じてもらえればと思います。これからもますますエンゼルの輪を広げていきたいです。

アツツがみ体験 7/27(土)

ボランティアセンターにて小学生以下の子どもを対象にアマツツがみを行いました。今年で3回目になります。たくさん子ども達が参加してくれました。元気よく泳いでいる魚を手で捕まえ、それを串に刺し炭で焼き、自分達で食べました。普段できない体験に、子ども達は興味津々で大はしゃぎでした。きっと生き物とのふれあいを通してたくさんの事を感じ学んでくれたことでしょう。



サリーの着付け 7/30(火)



伊丹国際平和・交流協会主催のイベント「五感で楽しむ世界の文化」が伊丹市立図書館（ことば蔵）にて行われ、本協会は「世界の民族衣装を着てみよう」のコーナーで子ども達にサリーの着付け体験をしました。

6mの布を巻きつけて着るサリーに子ども達は興味を示し、みんな楽しそうに喜んで着てくれました。短い時間でしたがバングラデシュの紹介もでき、お母さん達も一緒に興味を持ってくれていました。こうして、より多くの子ども達が異文化に触れ、世界に目を向けた広い視野を持つ大人になってくれることを願っています。



バザー&カレー販売 8/17(土) in 南小フェスタ夏祭り

伊丹市立南小学校で毎年恒例の「南小フェスタ夏祭り」が開催され、本協会もカレーやおもちゃ、手芸品を販売しました。オープンと同時に子ども達が集まってきて、お小遣いを片手にあれやこれやと品定めしながら嬉しそうに買物をしている姿に、思わず顔がほころびました。カレーも好評で用意した300食すべて完売しました。地域の方達と賑やかに楽しい夏の夕べを過ごしました。

DCEFだより

奨学生のスピーチ —バングラデシュ



皆様、こんにちは。私はナウリン・ジャハン・ミシュと申します。まず初めに、国際エンゼル協会の創立者、川村百合子さんが天国で幸せに暮らされている事をお祈り申し上げます。また、遠く離れた日本からやってきた、親切な日本のお母様方に感謝申し上げます。皆様がバングラデシュにいられて、私達のような貧しい子ども達に未来へつなげる道を作ってくださいました。本当にありがとうございます。

私は7年生の時から今までの長い間、国際エンゼル協会の奨学金をいただけてきました。経済的な理由で学校に通えない子どもがたくさんいる中で、幸いにも私は皆様の奨学金と出会い、学校に通い続ける事ができました。皆様から支えて頂いていると思うと、どんなに辛い事も乗り越えて勉強に励む事ができました。

私は今年で大学を卒業します。卒業後は公務員になり、バングラデシュの困っている子ども達の為に役に立つ仕事をしたいです。いつの日か、教育の光がバングラデシュの抱える様々な問題を解決してくれると信じています。日本の皆様にはいつも感謝しています。ありがとうございました。



ナウリン・ジャハン・ミシュ
(ジャハングール大学4年生)

DCEF (ディセフ)とは…
[Developing Country Educational Fund]

経済的に恵まれない発展途上国の子ども達に教育援助を行う里親制度。奨学金の供与や学校校舎の建設・設備の充実、農村女性を対象にした識字教室等を行っています。また、バングラデシュ以外に、フィリピン、スリランカなどの子ども達にも支援しています。

No.33

エンゼルホームの子ども紹介 ソルナちゃん Nazmin Akter (18才)



ソルナちゃんは小さい頃にお父さんを病気で亡くしました。その後、お母さんは彼女を含めて4人の兄妹を育てていましたが、次第に生活が苦しくなっていました。その為、彼女は11才の時にエンゼルホームで生活することになりました。

ソルナちゃんはホームに来てからは毎日勉強が出来るようになり、歌やダンスを教えられると、とても喜んで生活しています。彼女は読書が好きで、よく図書館で本を読んでいる姿を見かけます。また、木を植えて育てることも好きで、エンゼルホームでもたくさん木や花を植えてくれました。一生懸命世話をした花がきれいに咲いた時はとてもうれしいそうです。

現在YURIKOエンゼルス쿨の10年生です。将来は弁護士になりたいというソルナちゃん、これからもがんばって勉強に励み夢を叶えてください。

◎ソルナちゃんにいろいろ質問をしました

Q一番好きな科目は……………国語

Q好きなスポーツは……………サッカー観戦が大好きです。

Q将来の夢は……………一生懸命勉強して弁護士になり困っている人達の助けになりたい。

Q日本について知ってることは…日本は工業が発達していて良い製品をたくさん作っている。もし叶うなら、日本へ行って勉強したいです。